ARchives & ARchivist

「AR」はアーカイブズとアーキビストの頭２字をとり、歴史情報を守り未来に生かすさきがけの使命を表しています。

大分県公文書館だより

平成26年3月　第21号

「別府キャンプ跡地転用計画図」

「CAMP CHICKAMAUGA」

別府キャンプ跡地 幻の転用計画！

敗戦後、占領軍が日本国内に進駐する中、別府の野口原（現・別府公園付近）に、占領軍のキャンプが建設されました。昭和二一年一二月一五日、大分より一九歩兵連隊が移駐したこのキャンプは、アメリカ合衆国アラバマ州のチッカマウガという土地に地形が似ているということで、その名に因み「キャンプ・チッカマウガ」と名称されます。

このキャンプは、昭和三二年三月二五日に接収が解除され、引き渡しの調印が行われています。引き渡し後には、自衛隊別府駐屯部隊が移駐しました。

当館が所蔵する公文書『別府キャンプ転用計画案国際地区』によると、返還の前年に大分県がキャンプ跡地を国際観光施設に転用することを計画していたことが分かります。

同公文書に綴じられている昭和三一年一〇月二四日に起案された供覧文書には、「別府キャンプ跡地転用計画図」や「CAMP CHICKAMAUGA」（地図に朱色の手書きで転用後に計画している施設名などが書き込まれている）などの図面、厚生省国立公園部計画課長と全日本観光連盟企画部長の転用計画に関する意見などがあります。

これらは、当時、総務部長立木勝（後に第四五・四六代の大分県知事）や大分県副知事新貝肇まで供覧されています。

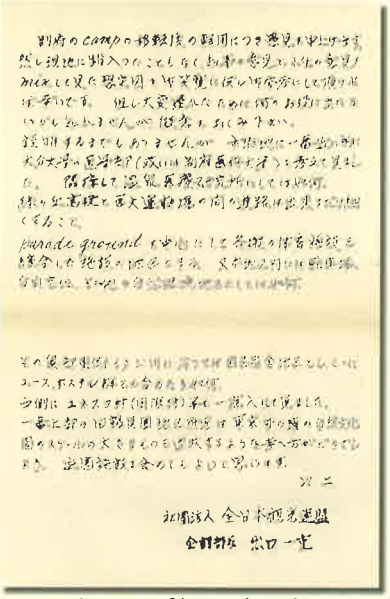
転用計画の詳細

・別府の市街地に大分大学の医学部（或は別府医科大学）、それに隣接して温泉医療研究所などを設置。

・板地川に沿って国民宿舎やユースホテルを建設。

・ユネスコ村（国際村）や東京の井の頭のような自然文化圏の形成。

キャンプ返還後、自衛隊が移駐した史実が物語るように、これらの転用計画は幻に終わりましたが、国際観光都市として別府は発展しました。



キャンプ転用計画案

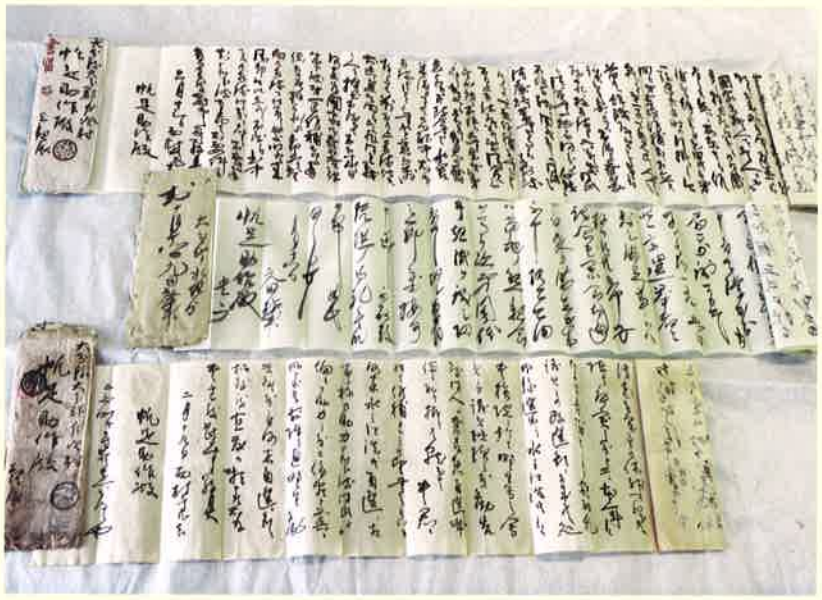
供覧（起案文）

収蔵新史料の紹介

帆足家関連資料

平成二五年一二月に大分市 二宮健氏から、帆足助作に宛てられた手紙など、計五六点を寄託して頂きました。

手紙から、明治二〇年代に行われた選挙の際に誰を候補者に立てるかなど、候補者推薦の経緯が窺えます。差出人には、元田肇、山本達雄、西村亮吉など、県政に影響を与えた人物が名を連ねています。



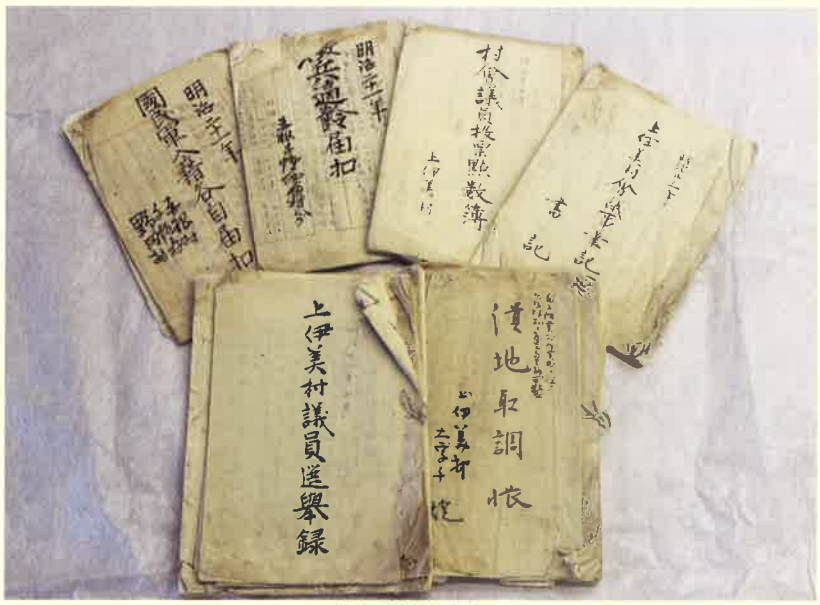
帆足助作に宛てられた手紙

上伊美村文書

平成二五年九月に国東市 廣末九州男氏から、上伊美村（現、国東市）に関する明治二〇年代の公文書、計一二点を寄贈して頂きました。

これらの史料は、上伊美村字野田の吉武国香氏の蔵を取り壊す際に発見され、郷土史研究会の会長であった吉武弘道氏が貴重な行政資料であることに気づき貰い受けたものです。

廣末九州男氏は、同研究会の会長職と史料を引継ぎ、後世に渡っての保存と多くの人々への活用を期待して当館に寄贈されました。



上伊美村文書

記録史料保存セミナー

平成二五年一一月二二日に、公文書館・先哲史料館・別府大学の共催による「記録史料保存セミナー」を開催しました。

市町村の文書管理及び文化財の担当者、福岡県共同公文書館職員、郷土史研究グループ、一般県民の方々など、約百名が参加され、「資料の管理・保存」をテーマに二つの講演と意見交換を行いました。

『藤沢市文書館の評価選別について』

（藤沢市文書館史料専門員　山田之恵）

評価選別とは、保存年限が経過した文書を廃棄する際に、価値があるものだけを選び出すことです。選別により、遺されることになった文書は、「歴史的公文書」として後世に渡って保存されます。

山田氏は、評価選別による文書管理の重要性を述べると共に、前年度の評価選別実績を参考に公文書を選別する方法を紹介しました。

評価選別は、保存・廃棄の選別結果をリストにして蓄積していくことが重要であり、このリストを参考に選別を行い、新たに発生した文書のみを選別した方が、効率的だという講演内容は、大変参考になりました。

公文書は、「民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源」です。県内の公文書が正しく管理・保存されるように、今後もセミナーなどを通じて啓発活動を続けていきます。

山田之恵氏の講演風景

『第二代大分県知事 香川真一新史料の発見』
～地域史料の保存促進に向けて～

（大分県公文書館非常勤職員　髙木翔太）

一昨年、岡山県瀬戸内市牛窓町にある香川旧邸の襖の下張りから貴重な歴史史料が発見されました。

襖という予期せぬ場所からの史料発見を紹介すると共に、襖の下張文書の解体整理方法、下張りに使用されていた興味深い手紙などを紹介しました。

歴史史料は、どこに眠っているか分かりません。地域住民や市町村の関係機関と協力して、史料の保存に取組む重要性を再認識しました。

大分のアーカイブズ三館合同展
「遺された記録 ―それぞれの史料が語ることは―」

豊の国情報ライブラリー（県立図書館、先哲史料館、公文書館）は、平成二六年二月八日から三月二四日まで三館合同展を開催しました。当館は、「蘇った記録―香川真一と大分県―」をテーマに、香川真一の旧邸に遺されていた襖の下張文書を中心に展示を行いました。

香川真一は、第二代目の大分県長官（知事）を明治九年（一八七六）九月四日から明治一二年一〇月一三日まで務めた、岡山県出身の人物です。

展示では最初に、香川の略歴や大分県長官としての政策を、襖の下張りから蘇った香川の履歴書の下書きや、当館所蔵の公文書などから紹介しました。

次に、襖の下張りに貴重な史料が使用されていた事情（当時は紙が貴重なため不要になった記録（紙）を再利用していた）や、襖の下張文書の解体整理方法などを、襖の下張り実物と解体整理時の写真を用いて解説しました。

最後に、明治初期の大分県の状況を、襖の下張りから蘇った公文書や手紙から明らかにしました。

来館者の関心が特に高かった史料は、湯平・別府への湯治や宇佐神宮などへの参詣など、休暇を願い出た「元・岡県庁の公文書」と、大分県内が大変な不景気に陥っている状況が綴られた「是恒真楫の手紙」でした。

雑感

公文書館は、平成七年二月に開館し、大分県が生まれた明治四年以降の大分県の公文書を中心に、約十二万四千点を超える史料を保存し、公開しています。

一般の方々にはなかなか目にする機会の無い公文書ですが、事実記録としての正確性から歴史史料として、また行政活動の証拠資料として、その保存の重要性が認識されつつあり、平成二三年四月には「公文書等の管理に関する法律」が施行されたこともあって、全国的にも公文書の保存を進める動きが活発になってきています。

公文書を収集し保存するにあたって常に頭を悩ませるのが、毎年大量に作成される公文書から保存すべき公文書を選びだす選別の問題です。

全ての公文書を保存することは物理的に不可能なので、作成時点の社会状況や県民生活が反映されているか、県行政の経緯を辿ることができるか等を考えて偏りが無いよう、保存する公文書を選び出さねばなりません。

頭を抱えながら悩みに悩むのですが、保存されている公文書を見つめる未来の方々の目を思い浮かべながら日々業務を行っています。

同じように現在から過去の公文書を見てみると、一見無味乾燥のように思えても結構生々しい記録もあったりして、当時の状況を垣間見ることができ、「よくぞ残しておいてくれた」と感じる瞬間です。この一言こそが公文書館職員への最大の賛辞なのでしょう。（館長 土谷 晃）

三館合同展　公文書館展示風景

お知らせ

当館は、明治期以降の資料を収集しています。資料についての情報、ご相談がありましたら是非ご連絡ください。

住居表示整備事業の実施に伴い、当館の郵便番号並びに住所が、平成二六年一月一一日から下記のとおり変更されました。

～利用案内～

利用時間

午前9時～午後5時

休館日

日曜日、月曜日

国民の祝日

(日曜日または月曜日と重なった場合は火曜日)

年末年始

特別整理期間

発行日　平成26年3月31日発行

編集・発行

大分県公文書館

〒870-0008　大分市王子西町14番1号

TEL　097－546－8840

FAX　097－546－8849

ホームページ　http://www.pref.oita.jp/site/346/

メールアドレス　a11103@pref.oita.lg.jp

案内図